

「日々の理科」(第 1547 号) 2018 (H30), 10, 03

「水面を歩く貝(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「どうしてこの貝は水面を歩くんだろう」・・・子どもにとっては当然の問いである。その問いの中には「仕組み」と「理由」の二つが隠れている。



その仕組みについてはよくわからない。恐らく、非常に軽いので、水と空気の境界の表面張力か何かで、重力に逆らってへばりついていられるのだろう。



問題はなぜこのような奇妙な行動をするのか、その「理由」のほうである。自然の営み――特に動植物の形態や行動には、例外なく理由がある。モノアラガイが水面を逆さまに歩くのにも、必ず理由があるはずだ。よく観察すると、1匹だけでなく、数匹同時に水面を逆さまに歩いていることもある。つまり、変わり者の1匹だけの特別な行動ではないということだ。私は子どもたちに聞いてみた。

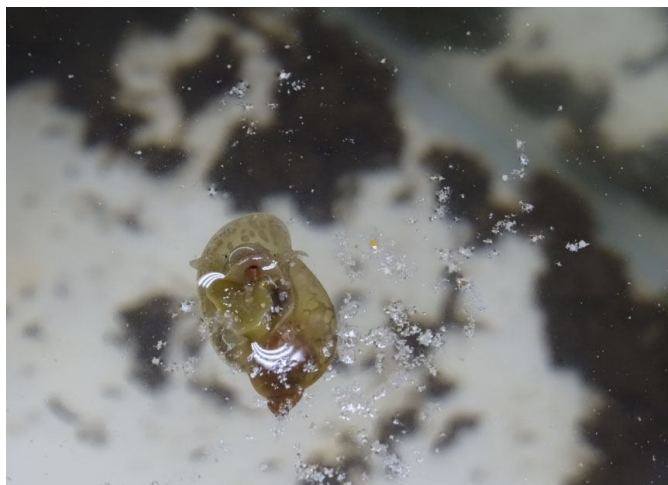
「外の景色を見ようとしている」

「空気を吸ってるんじゃないかな・・・」

「餌・・・？餌さがしてるんだ、きっと！」



よく観察すると、2本の触角の間に「口」のようなものがある。それをパクパクさせているように見える。



私はメダカの浮き餌を与えてみた。たちまちモノアラガイが寄ってきて、食欲に食べ始めた。



これが顔のアップ。目もあってかわいい。モノアラガイは水面の餌を探すために、歩いていたのだ。